

# 日・英敬語 <politeness expression> 対照研究

## 「日本語の敬語表現は英語ではどのように表わされるか」

——川端康成著『雪国』（昭和12年（1937））の作品中の敬語表現と

Edward G. Seidensticker による同著英語翻訳書

*Snow Country* (Tuttle Publishing Co.) 中の英語翻訳文を資料として ——

吉田 孝\*

（文中、その日本語訳が定まらない用語、強調したい用語は < >, ( ) に英語を挿入した。）

研究仮説：英語は日本語にはふんだんに存在する語彙化 <lexicalize> された敬語表現 <politeness expression> が乏しく、その代わりに「使用法」（語用論 <pragmatics>, 及びことばによらない伝達方式 <nonverbal communication>（時間、空間、表情、仕草、贈答等）の言語外的条件に依存したパラ言語的要素 <para-linguistic features> が尊敬関係を表わす。

### Part I 研究を進める場合の枠組み（敬語のとらえ方）及び先行研究

[1] 文体論 <stylistics> と敬語体：敬語体も含まれる各種「文体」を文体論的にどのように記述するか。

記述の枠組みとして、Quirk and Greenbaum (1973: 1) が提案した様々な文体変種 <variety classes> の記述パラダイムが適用出来る。（実例は「雪国」より。「島村」、「駒子」はその主な登場人物。）

VARIETY CLASSES	VARIETIES WITHIN EACH CLASS
(変種)	(変種の低位区分（各変種にふさわしい話し方）：実例)
Region (方言)	R1, R2, R3, ... (方言 1: 新潟方言（駒子の話し方）， 方言 2: 東京方言（島村の話し方）)
Education (教育程度)	E1, E2, E3, ... (教育程度 1: 小学校 (?) 卒らしい話し方（駒子）， 教育程度 2: 大学卒らしい話し方（島村）)
Social standing (社会的地位)	S1, S2, S3, ... (社会的地位 1: 芸者らしい話しぶり（駒子），

\*福島大学名誉教授

## 社会的地位 2: 作家らしい話しぶり (島村))

Subject matter (話題)	Sm1, Sm2, Sm3, ... (話題 1: ふたりの間柄が窺える話し方 (駒子), 話題 2: ふたりの間柄が窺える話し方 (島村))
Medium (媒体)	M1, M2, M3, ... (媒体 1: 音声発話 (駒子), 媒体 2: 音声発話 (島村))
Attitude (態度)	A1, A2, A3, ... (態度 1: 謙讓・愛情 (駒子), 態度 2: 尊厳・愛情 (島村))
Interference (母語からの干渉・外国語なまり)	I1, I2, I3, ... (今回の研究では適用外)

駒子の文体: 駒子は新潟方言 (R1) で, 小卒にふさわしい話し方 (E1) と芸者らしい口調 (S1) で男女の関係について (Sm1), 音声発話 (M1) で, 謙讓・愛情 (A1) をこめて。

<R1-E1-S1-Sm1-M1-A1>

島村の文体: 島村は東京方言 (R2) で, 大学卒らしい話しぶり (E2) で, 作家らしい口調 (S2) で, 男女の関係について (Sm1) で, 音声発話 (M1) で, 尊厳・愛情ある話し方 (A2) で。

<R2-E2-S2-Sm1-M1-A2>

[2] 敬語文法 (含, 敬語語彙) や, 敬語的なことばの使用法, 婉曲ないまわしについて: これらなことばの使用能力とどのような関係があるか。Canale and Swain (1980) のコミュニケーション (= 伝達) 能力 <communicative competence> は, 次の4種類からなる。就中, (1) は, 語彙化されされた敬語表現が, (2), (3) は語用論のレベルで記述される敬語表現が, (4) はことばによらない伝達方式がそれぞれ関係すると考えられる。

(1) *Grammatical competence or accuracy* is the degree to which the language user has mastered the linguistic code, including vocabulary, grammar, pronunciation, spelling and word formation.

(文法力とか文法的な正確さ (ことばを文法的に正確に使用出来るかどうか) はことばの使用者が, ことばの約束ごと (= 広義の文法, 語彙, (狭義の) 文法, 発音, 綴り, 語形成 (語尾などの形態素 <morphs> の適切な付け方) をどの程度正確に発揮出来るか, (各人が示す) その度合いのことである。)

(2) *Sociolinguistic competence* is the extent to which utterances can be used or understood appropriately in various social contexts. It includes knowledge of speech acts such as persuading, apologizing, and describing.

(社交 (人との付き合い) 上の言語能力とは, 話し手が, いろいろな発話を場面的に適切に使うことが出来るか, また聞き手として適切に理解出来るか, その度合いのことである。そこには, 説得, 謝罪, 説明などの発話行為 <speech act> の知識 (決まり事) が含まれる。例: 教授が, 4:10pm に終了する授業の時, 時間超過に気が付かず, 4:30pm まで授業を続けていた状況で, 学生が「先生, 授業を止めて下さい。」と発話するより「先生, もう四時半なんですけど。」と発話するのが社会的には適切な発言

である。)

(3) *Discourse competence* is the ability to combine ideas to achieve cohesion in form and coherence in thought, above the level of the single sentence.

(談話能力 <discourse competence> とは単一文のレベルを超えて、一区切りの話のやりとりに文法上のまとまりをもたせた話し方が出来るかどうかの能力のことである。例：「何がねずみを追いかけているの？」に対する答えの文は「猫がねずみを追いかけているのです。」が自然で、「ねずみが猫に追いかけているのです。」は不自然。後の文は「何が猫に追いかけているの？」に対する答えの文としては自然。このように、いずれの文でも、どちらがどちらを追いかけているかの関係そのものは変わらなくても、私達は猫、ねずみいずれかを焦点化した文を選択し、一区切りのやりとりにまとまりを保ち、適切に表現する能力を持っている。この能力はひとくぎりの談話 <discourse> の流れに首尾一貫性を持たせた話し方を可能にする能力で、談話を構成しているいくつかの個々の文のレベルを超えた、互いの文の関連性に関わるものである。)

(4) *Strategic competence* is the ability to use strategies like gestures or ‘talking around’ an unknown word in order to overcome limitations in language knowledge.

(ことば使用上の戦略 <strategies> 能力とは、ある単語が思い出せず、ずばり言えなくとも言い換え、ジェスチャーなどを使ったりして遠回し的な言い方で伝達上の困難を逃れる‘技’(わざ)の使用能力のことである。)

この枠組みに基づけば、敬語文法や、語彙が発達している日本語の敬語能力には(1)が、敬語文法や、敬語語彙が余り発達してない英語の敬語能力には、(2)、(3)、(4)が重要であることが容易に予想される。

[3] 「敬語選択の外的条件」：この問題の代表的な二つの記述(南(1974)、水谷(1985))を紹介する。

1. 南 不二男著『現代日本語の構造』(東京：大修館書店)：

敬語の4分類：1) 尊敬語 2) 謙譲語 3) 丁寧・丁寧語 4) 美化語 (同書1975：221-226より)

#### 1) 尊敬語

動詞そのもの：アガル、イラッシャル、オッシャル

動詞につく助動詞：ラレル

自動的連語：オ～ニナル (オ書キニナル、オヤスミニナル)

形容詞・形容動詞：オ美シイ、オ静カダ

副詞：ゴ (ゴユックリ)

人の呼び方：代名詞関係 アナタ、アノカタ、コノカタ

接頭辞的な要素がついたもの：オ～ (オ父上)

人の名前などに接尾辞的な要素がついたもの：～サン

職名称号など：・・・社長、チャールズ王子

接頭辞と接尾辞が同時についているもの：オ～サン

#### 2) 謙譲語

人の動作を表す言い方：アゲル、イタダク、拝見スル

人の呼び方：ワタシ、ワタクシ、テマエ

人に属する物・事の呼び方：愚見、拙宅

#### 3) 丁寧語・丁寧語

助動詞：～デス、～マス

動詞・形容詞など：～デゴザイマス

接頭辞：オ静カナ晩デスワネ

代名詞など：アチラ（アッチに対して）

#### 4) 美化語

自立語の類：イタダク（タベルに対して）、タベル（クウに対して）

接頭辞の類：オ～（オツトメ）

これらに共通した特徴としては、次のような点を抽象することが出来る。

(1) なんらかの対象についての話し手の配慮があること。

人間関係についての配慮。

そこで表現されることがらについての配慮。

四周の状況についての配慮…直接会話、間接的手段。

(2) 配慮の対象あるいはそれについての表現に対する、言語主体者の何らかの評価的態度があること。

なんらかの意味で上の者とみなす。

あらたまった態度をとる、くだけた態度をとる。

(3) その結果として、表現の素材的内容あるいは表現そのものに対する言語主体の具体的な表現の扱い方に違いが生じる。

## 2. 水谷信子著『日英比較 話しことばの文法』（東京：くろしお出版）のまとめ：

水谷の日本語の敬語についての説明は、南と重なる部分があるが、英語における敬語表現との比較を念頭においてまとめられている。（同書 1985：182-187, & 224 より）

待遇表現の分類：

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 1) 尊敬     | Honorific Expressions   |
| 2) 謙讓     | Humble Expressions      |
| 3) 話体（丁寧） | Levels of Speech        |
| 4) 遠慮     | Expressions of Reserve  |
| 5) 親愛・共存  | Expressions of Intimacy |

就中、1) 尊敬、2) 謙讓、3) 話体（丁寧）が敬語との結びつきが強い表現と考えられる。

### 1) 尊敬表現の下位分類

- (1) 他者の人格・所有に対する尊敬
  - a. 尊敬の度合いによる区別
  - b. 性による区別
  - c. 立場による区別
- (2) 他者の行動に対する尊敬
- (3) 他者の状態に対する尊敬

### 2) 謙讓語法の下位分類

- (1) 自己の人格・所有についての謙讓
- (2) 自己の（相手に対する）行動についての謙讓
- (3) 自己の状態に対する謙讓

3) 話体による丁寧さの表現

話体、つまり話の文体とは、話しかたの調子である。たとえば日本語なら書くときには「である調」と「です・ます調」があるが、話すときにも、調子の違いがある。

水谷 (1985) には、英語敬語表現は、主に仮定法と婉曲表現の使用が担っているという指摘がある。

(日本語では、文法的な形態 (morphological form) としての仮定法はない。) 水谷は「婉曲語法の日英対照」を次の2点に要約している。(1985: 224)

- (1) 英語が仮定法を中心とするのに対し、日本語では例示表現や省略などを中心とする。
- (2) 仮定法の基本概念である「可能性の低評価」に対し、日本語の婉曲表現の基本は例示と暗示である。

[4] 英語を母語とする人達は、日本語をどのようにとらえているか：

次は Dominico Lagana : *Keigo* (『青い眼が見た日本点景』東京：金星堂 (1983) 収録) のエッセイに描かれている英語圏の人々の日本語の敬語の受け止め方、認識である。

‘*Keigo*’ の要点：

「日本語の敬語に表された日本人の礼儀正しさ、*politeness* には信じられないものがある。「お月様」などは二重敬語であり *Mr. Honorable Moon* などと誇張してエキゾチックにおもしろく表現されたりする。昔ほどではなくなったにせよ、日本語の敬語は西洋の英語を母語とする日本語学習者にとっては難解なものであることには変わりはない。日本語の「わたし」は 120 種の使い方があると言われている。日本語以外の言語、*Italian (tu, voi, Lei)* *German (du, Sie)* *French (tu, vous)* も複数種が使用されてはいるがその数は極めて少なく日本語ほどその種類の多い言語は他に類を見ない。」このコメントは語彙化された日本語における敬語表現の豊富さの指摘であると解釈出来る。又、このエッセイの最後に付けられた次ぎの感想文は、それなりに日本語の敬語の複雑さを捉えている：

A mastery of *keigo* means that not only must you know the words but you must also know how, when, and if to use them. (「敬語をマスターするためには単語のみならずその単語をどのように、いつ使うかわからないかについての知識が不可欠である。」)

同書に付記された *DIALOGUE* (「0-に悩まされる外国人」) の観察も興味深い。

次は日本語の敬語が不思議でたまらないアメリカ人 (A) と、敬語の使い方についてのそのアメリカ人の質問に答えてあげている日本人 (J) との対話の一節である。アメリカ人の、日本語の敬語に対する典型的な認識のありよう、とりわけ [5] で述べる敬語使用の際の外的条件が現れている。

*DIALOGUE - KEIGO*

A: What factors do you take into consideration when you use *keigo* ?

J: Well, you think of your basic position, then perhaps how well you know the person you will speak to. You always give strangers the benefit of the doubt and are more polite to them. Then you may think of the age difference between you and the person, and of course the sex difference is important.

A: Sounds rather complicated. It's no wonder Japanese who don't know each other seldom start informal conversations with each other as Americans like to do.

J: Perhaps. Americans can speak in abstract terms to each other on impersonal topics but human relation must be shown by polite expressions.

## [5] 敬語選択の外的条件のデータ:

南 不二男著『現代日本語の構造』(1974: 264-271)を枠組みとし実例はすべて『雪国』より。

## (1) 人間関係の条件

イ	本人か本人でないか	両方
ロ	性別	駒子(女): 島村(男)
ハ	役割的上下関係	芸者: 客
ニ	社会階層的地位の上下関係	芸者: 作家
ホ	年齢的上下関係	駒子(二十歳前後): 島村(四十歳代?)
ヘ	身うちか身うちでないか	他人
ト	個人間の歴史的関係	他人同志が「特別な」間柄になるまで
チ	立場的關係	特殊な「愛」

## (2) ことがらに関する条件

イ	問題のものごとが、形式的か形式的でないか	両方
ロ	問題のものごとが、一般の日常生活的なものか、それともあるきまった専門分野のものか	両方

## (3) 状況に関する条件

イ	形式的か形式的でないか	両方
ロ	1対1の対話か、1対多数の対話か	主に1対1のデータ
ハ	直接の対話か、間接的手段による対話か	直接

## Part II 『雪国』と「その英語翻訳書」における敬語表現

<研究仮説(再): 英語は日本語にはふんだんに存在する語彙化された敬語表現が乏しく、その代わりに「使用法」(語用論、及びことばによらない伝達方式(例、時間、空間、表情、仕草、贈答等))の言語外的条件に依存したパラ言語的要素が尊敬関係を表す。>

註1. 本論での「敬語文法」という用語について: 敬語的表現が日本語、英語において規則的にその表現に対応する言語形式やシステムを有する(つまり範疇化 <categorize> されている)場合のみ、その言語形式とシステムを敬語文法と呼ぶ。

註2. 「敬語は言語の形態や構成の諸面に現われる。(1) 文法, (2) 語彙, (3) 修辞, (4) 音声, (5) 文字など。... 他の諸言語では多く (3) (実質的意義において待遇的意義を表す) や (2) (実質的意義とともに待遇的意義を表し通則的でない) にとどまる敬語が、日本語ではさらに、(1) にも及んでいることが、相対敬語への発展とともに特色である。」(『国語学辞典』(1967: 287))

<研究仮説敷衍: 英語には日本語に存在する「敬語文法」がない。尊敬関係を表す定形表現(法助動詞の使用)、語彙(呼び掛け語の一部)は存在するが、それらは日本語と比べるとごく少数である。尊敬関係は主として「使用法・婉曲法」が担っている。(傍証: 英文法書には「敬語語法」, 「敬語システム」など敬語について独立した記述、説明のための章が見当たらない。それに対して日本語文法書には、尊敬、敬讓、謙讓を取り扱っている章、セクションが必ず含まれている。)>

1. この仮説をたてたきっかけ: 川端康成著『雪国』の敬語(体)が Seidensticker による英語の翻訳ではどのように表されているかを調べた時にその仮説を思いついた。下のデータが示していることであるが、原書の日本語ではあきらかに敬語表現であると判断される日本語の文(以後、Jと略記)が、対応

する英語翻訳書の英語の文（以後、E と略記）では、前後関係 <linguistic and situational context> を抜きにすると、日本文の意味内容のみを伝える、無味乾燥で、話し手の聞き手に対する尊敬、謙譲など、いわゆる情意的意味 <affective meaning> が切り捨てられた文になっている。それは、敬語文体が高度に発達している日本語と、敬語文体が無い英語の違いに起因するからであると考えた。一例を示す。(( )) のページはそれぞれ J: 川端康成著「雪国」(新潮文庫, 2003), E: Yasunari Kawabata “Snow Country” Translated by Edward G. Seidensticker (Tuttle Publishing Co., 2002))

J: 「あら忘れてたわ。お煙草でしょう。」と、女はつとめて気軽に、「さっきお部屋へ戻って見たら、もういらっしゃらないんでしょ。どうなすったかしらと思うと、えらい勢いでお一人山へ登っていらっしゃるんですもの。窓から見えたの。おかしかったわ。お煙草を忘れていらしたらしいから、持って来てあげたんですわ。」(p. 26)

E: “I forgot,” she suddenly remarked, with forced lightness. “I brought your tobacco. I went back up to your room a little while ago and found that you had gone out. I wondered where you could be, and then I saw you running up the mountain for all you were worth. I watched from the window. You were very funny. But you forgot your tobacco. Here.” (p. 31)

2. 比較文化論的に、たて社会的上下人間関係や男女差に関わる価値観が伝統的に発達している日本文化の社会と、よこ社会的、水平人間関係や男女平等に関わる価値観が維持されている西欧英語文化の社会の対照的な相違がしばしば指摘されている。「言語が社会を写し取る鏡」(Sapir-Whorf Hypothesis) ならば、日本語に敬語文法があり、英語にそれが発達してないのは当然のことかも知れない。

3. 作業仮説: 『英語には日本語には存在する言葉としての敬語文法がない。では英語を母語とする西洋の人々はどのようにして彼等の敬意、へりくだりの気持ちを「ことば」として相手に伝えているのだろうか。日本語に存在する敬語表現が敬語表現が存在しない英語によって翻訳された場合、日本語の敬語表現がどのように英語に移し換えられているのかを対比検討することにより日・英語敬語表現の違いが明らかになる。』

#### 4. 作業の進め方

4.1. 川端康成『雪国』とその英語による翻訳書 (*Snow Country*) (Translated by E.G. Seidensticker) をデータとして、主人公駒子 (芸者) がもう一人の主人公である島村 (作家) に語りかける話しことばの日本語原文中、尊敬・敬譲・謙譲を表わしていると判断される「せりふ」とそれに対応する英語翻訳文の対照分析を行う。ただし、前述したように、南 (1974) は敬語を尊敬語、謙譲語、丁寧・丁寧語、美化語と分類し、水谷 (1985) は待遇表現 (= 敬語) を尊敬 <Honorific Expressions>, 謙譲 <Humble Expressions>, 話体 <Levels of Speech>, 遠慮 <Expressions of Reserve>, 親愛・共存 <Expressions of Intimacy> とこまかく分類しているが、本論では、英語の翻訳文を予備的に検討した結果、日本語のこまかい対応は英語では殆んど認められないことが判明した。それで、英語を日本語の敬語の視点から分類すると、英語を必要以上に分類してしまう危険を避けるため、日本語の敬語は「敬語表現」として一本にまとめ、データとして採用した日本語に「敬語表現」として判断される部分にアンダーラインを付すだけとした。(敬語選択の条件は (南 (1974)) の枠組みに、『雪国』の主人公 (駒子, 島村) をあてはめてすでに例示した。[5])

4.2. 『雪国』における敬語表現中、主な表現を蒐集し、データカードにひとつずつ出所ページをつけながら書き取る。(註. そのデータを基にベースライン(日・英尊敬表現の程度、種類を調べるのに敬語で表現されず、フラット(neutral)に表現された場合の日本語)を準備することが望ましいが今回はベースラインの記述は省略。)

5. Seidensticker: *The Snow Country* では、日本語の敬語表現はどのように英語に翻訳されているか:

Key: データ番号, J(日本語対話)。—(使用日本語テキスト出典ページ), 駒子の島村への対話原文, 原文中アンダーライン部は敬語・敬讓・謙讓と判断される部分。E(英語翻訳), —(使用英語テキスト出典ページ), 駒子と島村の対話英文。

比較分析(analysis)とコメント(comment)はA/C, と略記。

註: A/Cにはデータの性質(活字ジャンル)上, 声の調子いわゆる Suprasegmental features (stress, pitch, juncture, intonation, rhythm, tempo), Prosody, Paralinguistic features, Kinesics, Nonverbal features (use of time, space, etc.) への考察が除かれている。(この点後述)

1: J-18 あなたが誰か呼んで直接はなしてごらんになるといいわ。

E-20 Go ahead, try calling someone and talking to her yourself, if you want to.

A/C: 日本語での敬語「ごらんになる」は英語では2つの命令形‘go ahead, try...’ときわめて直裁的に翻訳されている。「いいわ」の翻訳‘if you want to’においても日本語のやわらかさが感じられない。

2: J-18 よくそんなことが私にお頼めになれますわ。

E-20 Isn't it fine that you think you can ask me a thing like that !

A/C: 「お頼めになれます」は全体として敬語体であるが, このせりふの前後関係から判断すると, 敬語体を逆用した駒子の島村に対する「皮肉」ととれる。一方その英語では Isn't it fine... (否定修辭疑問文)と「!」の使用で直接的に皮肉が表現されている。敬語経由の皮肉表現が英語では, 敬語が存在しないため, 不可能であることを示すデータである。

3: J-22 こんな真昼間になんにもおっしゃれないでしょう?

E-26 But what can you say to a woman in broad daylight ?

A/C: 「おっしゃれない」の英語版は You can't say anything. ではなくそれよりもむもつきつい詰問 What can you say...? と翻訳されている。これも日本語の敬語(おっしゃれない)を使用して相手に迫る感じが, 英語では不可能であることを示すデータで, 英語には逆用すべき敬語そのものが存在しないことの証拠と解釈出来る。

4: J-22 この土地を荒稼ぎの温泉場と考えちがいしてらっしゃるのよ。

E-26 You take this for a cheap hot-spring town like any other.

A/C: 「(い) らっしゃる」は明らかに敬語であるが, その英語版にはその日本語に対応する敬語の語彙がないため, You take this for... と直接的である。I wonder if you take this for... とか It may be that you take this for... など婉曲ないいまわしにすら翻訳されてないのは何故なのだろうか。



5: J-25 どうなすったの。

E-29 What happened?

A/C: 英語ではこれほど直接、簡潔な質問はない。What happened, I wonder. ならへりくだりの気持ちが表現されると思われるのに、そのような表現として翻訳する意図は全く無さそうである。英語は文字による表出からだけでは敬語とは縁のうすい言語であると感じざるを得ない。

6: J-25 うれしそうに笑っていらっしゃるわよ。

E-29 You must have been very happy, the way you were laughing.

A/C: 「いらっしゃる」は日本語では典型的な敬語であるが、英語の翻訳では、「相手をたてる」という気配すら感じさせない表現になっている。「きつとうれしかったんだ、あなたの笑いっぷりから判断すると。」が英語の日本語版である。

7: J-25 年増にはきれいな人がありますわ。

E-30 Some of the older ones are very attractive,

A/C: 英語には敬語的感じがゼロである。

8: J-26 さっきお部屋へ戻って見たら、もういらっしゃらないんでしょう。

E-31 I found that you had gone out.

A/C: ...you had gone out は「すでに外出していた」という事実を伝えるのみである。

9: J-26 どうなすったかしらと思うと、

E-31 I wondered where you could be, ....

A/C: このデータは、2つの意味で貴重である。まず、I wonder... (…でないかしら) と、表現して、駒子が思ったことを、断定的にきつく述べることを避ける感じが英語では表現され、やわらかいいいまわしになっている。また、where you could be, ... と仮定法過去形 (could) を翻訳で採用することによって、直接的な where you were, ... より、婉曲ないいまわしになっている。英語文法では、敬語語彙や敬語文法が無い場合、語用論的な表現方法でへりくだりや尊敬の気持ちを相手に伝えるという、本論の研究仮説の数少ない実証データである。

10: J-27 こんなに藪が寄ってきましたわ。

E-33 The sand flies have come out,

A/C: 英文は事実を伝えるのみ。

11: J-30 お友達でいようって、あなたがおっしゃったじゃないの。

E-37 Didn't you say you wanted to be friends?

A/C: Did you say...? よりも Didn't you say...? の方が相手に No と言わせる余地があるような気がするが、もしそうなら、そこに翻訳者の尊敬の気持ちを幾分でも英語に盛り込もうとした工夫が認められるかも知れない。しかし英語ではイントネーションによっては詰問ととられかねない。

12: J-39 よく見て下さらなければ駄目よ。

E-47 I want you to look close.

A/C: この英文も、イントネーション次第で、とてもきつい表現になりはしまいか。

Please を付加するとか、I would like to ask you to look close. と翻訳されていないのは何故だろうか。

13: J-42 あんなとこお通りになっちゃ。

E-51 You embarrass me, walking by at a time like this

A/C: 日本語の敬語の典型である「お」を英語の接頭語として訳出することが不可能であることをこのデータは示している。(‘あんなとこ’が何故‘at a time like this’と訳されているのであろうか?)

14: J-42 うちへ寄っていただこうと思って、

E-52 I might ask you to come by my house?

A/C: データ9同様、仮定法過去形の might が使用されている、貴重で、希少な婉曲法データである。

15: J-43 よく御存じね。

E-52 How did you know?

A/C: 英語では疑問詞 how で翻訳することによって、「相手が知ってるか否か」を詰問するのではなく、「どのようにして、知り方」をたづねることによって間接的な質問になっている分だけ、へりくだりの気持ちが訳出されていると思う。

16: J-59 一番肩の張るお客さま。

E-71 The customer is being difficult.

A/C: データ13同様、「さま、様」も一般的には英語では訳出されない。‘sir’や‘madam’, ‘ma’am’は使用場面 <social context> が極めて限定されており、駒子がこの場面で使用している「お...さま」の訳語としてはふさわしくない。

17: J-67 どうして髭をお伸ばしにならないの

E-81 Why don't you grow a mustache?

A/C: 日本語の否定疑問文の気持ち(相手にnoを言わせる余地(前述))を伝えるのなら、日本語とストレートに対応出来る英語翻訳文と言えよう。

18: J-77 きっといらっしゃると思って、

E-95 I was sure you would be here on the fourteenth, ...

A/C: 英文中の would は、will の過去形とも仮定法過去形(ひょっとして、もしあなたに可能でしたなら…)の would で婉曲法とも解釈出来る。

19: J-84 さあ、言ってごらんなさい。

E-102 Tell me,

A/C: 小説のこの場面での駒子の発言を読むと、日本語の方は、敬語のいわば逆用で、きつい感じである。英語では、敬語がそもそも無いから、敬語経由での詰問の調子を訳出することは不可能である。このデー

タは、英語での敬語の無さを浮きぼりにしている。

20: J-85 一年に一度でいいからいらっしやいね。

E-103 You'll come once a year, won't you, while I'm here?

A/C: You come once a year, ...ではなく、未来形 'will' (= 'll) と、その付加疑問文 won't you ...? で表現をやわらげる工夫がされている。その点で、駒子の敬意が訳出されていると言える。やはり英語では敬語文法レキシコンではなく、表現方法によって敬意を伝えるしくみを示すデータである。

21: J-85 直ぐ経ってしまいますわ。

E-103 It will pass in a hurry.

A/C: 英語には日本語の「...わ」の対応形がない。

22: J-93 やっぱり髭をお伸ばしにならなかったのね

E-113 You didn't grow a mustache after all.

A/C: アンダーライン部で伝えられる日本語字体の婉曲な表現からは程遠い英語である。

23: J-93 きれいに剃ってらっしゃるのね。

E-113 You always shave yourself nice and blue.

A/C: データ 22 に同じ。

24: J-94 起きて頂戴。

E-114 Get up. Get up, please.

A/C: 「(..して) 頂戴」は私たちがよく使う日本語であり、文字そのものは敬語・謙讓的。しかし英語に於いては 'please' の付加はあるものの命令形であり、しかも Get up. Get up. と2度も繰り返されて訳出されている。

25: J-98 それごらんなさい。

E-118 See?

A/C: これも「ごらんなさい」という敬語の逆用で、「それ、みたことか」というきつい表現に転用されている。英語では敬語がないから敬語の逆用が出来ない。再び、英語では敬語が無いことの間接的な証拠になっている。

26: J-106 はあ、..... でございますから

E-127 Yes, sir.

A/C: 'sir' が用いられた貴重なデータ! (sir は madam 同様英語の数少ない敬語のレキシコン)

27: J-119 あの子のことよく見てごらんなさい。

E-141 Take a good look at her.

A/C: 英語は単なる命令形。

28: J-119 きっとそうお思いになってよ。

E-141 You'll see what I mean.

A/C: 未来の助動詞 will (= 'll) の使用が‘やわらげ’の気持ちを伝えていると言えよう。

29: J-125 言って頂戴。

E-148 Admit it. That's why you came to see me.

A/C: 「頂戴」についてはデータ 25 の A/C 参照。

30: J-125 やっぱり笑ってらしたのね。

E-148 You were laughing at me after all.

A/C: 英語は単なる過去進行形に過ぎない。

31: J-126 お湯にいらっしゃいません?

E-148 Are you going for a bath?

A/C: 英語では何故 Aren't you going ...? と疑問文に訳出し、相手に No を言わせる余地を与える文にされなかったのだろうか。駒子がこのことばを発する際のイントネーションや顔の表情、鳥村に対する姿勢を英文の読者はこのことばにかぶせて読んでいるのである。

32: J-135 どこへいらしたの?

E-161 Where have you been?

A/C: 英語は単なる現在完了形。データ 32 のコメントがやはりあてはまる。

33: J-135 あんたの出ていらしゃるところ、私みてたのよ。

E-162 You didn't know I was seeing you off, didn't you?

A/C: 英語の表現はとてもきつい。

34: J-139 あんたはいいのよ、いらっしゃらなくて。

E-164 You don't need to go any farther.

A/C: データ 33 同様、英語の字面はきつく、相手に対する尊敬や、話者駒子の謙譲の気持ちが全く無い。(これを仮に駒子が英語で発話した場合、彼女のイントネーション、表情、声色、鳥村との空間の取り方、ジェスチャー等冒頭註で述べた <paralinguistic features> はどのようなものだろうか? この疑問は他のすべてのデータに当てはまる。)

## 6. 考察

研究仮説通り、日本語と異なり、英語にはことばに表される尊敬表現が無いことが以上のデータを踏まえて十分に実証される。アンダーラインされた日本語の敬語に対応している英語訳文は、その殆どが事実のみ伝える、直接、直裁的な文である。日本語では敬語を逆用しての皮肉っぽい言い回しがいくつかのデータに観察されたが、英語訳は皮肉が伝えられていない。英語には敬語が存在しないことの有力な証拠ではないだろうか。日本語原文の敬語が、英語では、仮定法過去形、未来の助動詞の使用、否定疑問文を使用して訳出されているデータが少数認められたが、これらは、仮定法と婉曲用法で引用した

水谷（1985）の指摘にもかかわらず、むしろ例外的な用法に属すると思われる。

## 7. あとがき — ことばの比較を越えて —

今次の仮説が正しく、英語にはことばの約束事（文法）としての敬語がないとすれば、ことば以外に、意志、意図、感情（含、尊敬や謙譲の気持ち）を相手に伝える手段にはどのようなものがあるだろうか。

1) ことばにいわば‘かぶさって’使われる超文節音素 <suprasegmental phonemes> の要素のひとつであるイントネーション <intonation = 文末ピッチ <pitch> + 末尾接続 <terminal juncture>> の機能が考えられる。（Cf. 発話の際の「調子の違い」（水谷 1985））

イントネーションの3つの働き：（なおピッチには高・低4段階（4-3-2-1）、末尾接続には下降 <falling>・上昇 <rising>・平坦 <level> 接続がある。）

(1) 意味や意図の違いを伝える。

He is a teacher. (事柄の伝達) (しり下がりイントネーション) <pitch 1 + terminal falling>  
対

He is a teacher? (問いかけ) (しり上がりイントネーション) <pitch 3 + terminal rising>

He is coming tonight. のイントネーションのあり様によって相手に様々な意図を伝えることが出来る：

例。「借金とりの彼が今夜あなたに会いに来るよ」 だから「早く身を隠しなさいよ」、とか

「あなたのボーイフレンドの彼が今夜来るよ」 だから「ワインでも買って待ってたら」etc.

(2) 意味を強める。

He IS a teacher. (is の部分を強く、高く) 「彼は（絶対に）先生だ。」

(3) いろいろな感情を伝える。

He is a teacher! (とても高いしり上がりイントネーション) <pitch 4 + terminal rising>  
「彼が先生だって！（それは驚いた）」

「雪国」の英文は、文字媒体のため、音媒体の超文節音素であるイントネーションは活字には現れない。英語の読み手は、対話の前後関係 <contextual, situational and social context>、及び様々な言語外要素 <paralinguistic features> から「駒子」の「意図」、「感情」（例、尊敬の念、謙譲の気持ち <politeness feeling>）を推し測り、それにふさわしいと思われるイントネーション、声色、声の調子を活字にかぶせ、それらをいわば読み込んでいるのではないだろうか。

## 2) ことばによらない伝達手段 = Non-verbal communication, silent language

(1) 身振り言語 <kinesics, gesture, body language>

英語の読み手は駒子がせりふを発する時の鳥村に対する尊敬、謙譲を表すと思われる身振りを前後関係から想像しそれなりの感情移入をしながら、彼女のことばを読んでいると解釈出来るであろう。

(2) せりふを言う時の駒子の表情も顔によるジェスチャーであると解釈出来る。

(3) 空間 <space> の使い方。駒子がせりふを言う時、鳥村に対してどのような尊敬、謙譲の気持ちのためと解釈出来る距離や空間を保っているのだろうか。（Cf. 「三尺下がって師の陰を踏まず」）鳥村への駒子の体の向き、姿勢も入る。英語の読み手は駒子のこのような空間の使い方を想像しながら読んでいるのである。

(4) 時間 <time, timing> の使い方。せりふを言う時のテンポ、リズムはぶっきらぼうにいうときと「尊敬、謙譲」の気持ちを込めて言う時とで明らかに異なる。英語の読み手は駒子がどのようなテンポ、リ

ズムで話しているかを、前後関係から想像しながら読んでいます。

結局、英語の読み手は、駒子の場面ごとのせりふを取り囲んでいる「場」の力（ベクトル）のうち、尊敬、謙譲、丁寧さの**ことば**を選択させている力を感じて読み進んでいるのである。場面のベクトルへの依存度は英語は日本語よりはるかに大であると思われる。

### 結語：

比較文化論的に、たて社会的、上下人間関係や男女差に関わる価値観が伝統的に発達している日本文化の社会と、よこ社会的、水平人間関係や男女平等に関わる価値観が維持されている西欧英語文化の社会の対照的な相違がしばしば指摘されている。言語そのものが社会を直接的に写し取る鏡（Sapir-Whorf Hypothesis）ならば、日本語に敬語文法が発達し、英語にそれが発達してないとするのも可能であろう。しかし、このことをもって英語社会にはこの小論で取り上げた尊敬・謙譲、丁寧、丁寧さの**価値観**が無いと考えるのは明らかに間違いである。その表現の仕方が異なるだけのことである。本論の仮説の通り、日本語はいわば言語内文法（敬語法）<honorifics>に依存し、英語は言語外要素からなる語用論<pragmatics>に依存しているのである。■

(2011年10月5日受理)

### 使用テキスト

川端康成著. 2003. 『雪国』東京：新潮文庫.

Yasunari Kawabata. 2002. *Snow Country* Translated by Edward G. Seidensticker. (Boston : Tuttle Publishing Co.).

### 参考文献

Oxford, Rebecca. 1990. *Language Learning Strategies What Every Teacher Should Know*. New York : Newbury House Publishers.

Peter Cole/Jerry L. Morgan eds. 1975. *Syntax and Semantics — Speech Acts* (Vol. 3). Academic Press, Inc.

Quirk, Randolph and Sidney Greenbaum. 1973. *A University Grammar of English*. London : Longman.

Seidensticker, Edward G. and others (Eds.). 1983. *Japanese Culture from Foreign Eyes*. (『青い眼が見た日本点景』). Domenico Lagana. 'Keigo'. 東京：金星堂.

榎垣 実. 1975. 『日英比較表現論』. 東京：大修館書店.

大江三郎. 1970. 『(改定) 英語の構造』. 東京：真砂書房.

筧 他編注. 1988. Lakoff, Robin. *Language and Woman's Place*. (ことばと女性の立場). 東京：英宝社.

勝又永朗. 1966. 『大学英文法』. 東京：開文社.

国広哲弥(編集). 1981. 『日英語比較講座 第3巻 意味と語彙』. 東京：大修館書店.

国語学会編. 1967. 『国語学辞典』. 東京：東京堂出版.

最所フミ. 1976. 『英語と日本語 発想と表現の比較』. 東京：研究社.

田中菊雄. 1972. 『英語広文典』. 東京：白水社.

鳥飼玖美子, キャロラインクライン. 1977. 『女性のための英会話』. 東京：評論社.

鶴田康子. 1985. 『英語のソーシャルスキル』. 東京：大修館書店.

日英言語文化研究会(編集). 2005. 『日英語の比較 — 発想・背景・文化』. 東京：三修社.

直塚玲子. 1985. 『欧米人が沈黙するとき — 異文化間のコミュニケーション』. 東京：大修館書店.

南不二男. 1974. 『現代日本語の構造』. 東京：大修館書店.

南 和子. 1978. 『女性の英語』. 東京：光文社.

水谷信子. 1985. 『日英比較 話しことばの文法』. 東京：くろしお出版.

安井 稔. 1978. 『言外の意味』. 東京研究社出版.

安井 稔. 1987. 『例解現代英文法事典』. 東京：大修館書店.

**A Contrastive Study of Politeness Expressions  
Across Japanese and English  
—— With Special Reference to *Snow Country* by Y. Kawabata and  
its Translation by E.G. Seidensticker ——**

**YOSHIDA Takashi**

This paper attempts to verify the hypothesis that for politeness expressions Japanese tends to depend on lexically developed features while English is likely to rely on pragmatically developed features. After briefly reviewing the stylistics framework (Quirk and Greenbaum (1973)) and identifying polite speech acts relative to four types of communicative competence (Canale and Swain (1980)), the paper discusses the politeness expressions which include honorific expressions, humble expressions, expressions of reserve and intimacy by examining the dialogues between the two main characters (Komako and Shimamura) in the original Nobel Prize novel 「雪国」 by Yasunari Kawabata and its English translation *Snow Country*, by Edward G. Seidensticker. The paper concludes that, as hypothesized, Japanese expresses politeness lexically, i.e., intralingually, while English utilizes suprasegmental, i.e., paralingual and pragmatic means.